



1960年代の浸水対応型建築：現・葛飾区総合庁舎（JA+U ホーム ページより、本誌 24 号表紙ウラも参照）

行政から



11/25 東新小岩七丁目 広域避難訓練の様子（左：二上小学校出発、右：秋葉原駅乗換）



江東5区広域避難パンフレットより抜粋

川の手・人情都市「かつしか」の実現に向けて（2）

情野 正彦

葛飾区 都市整備部

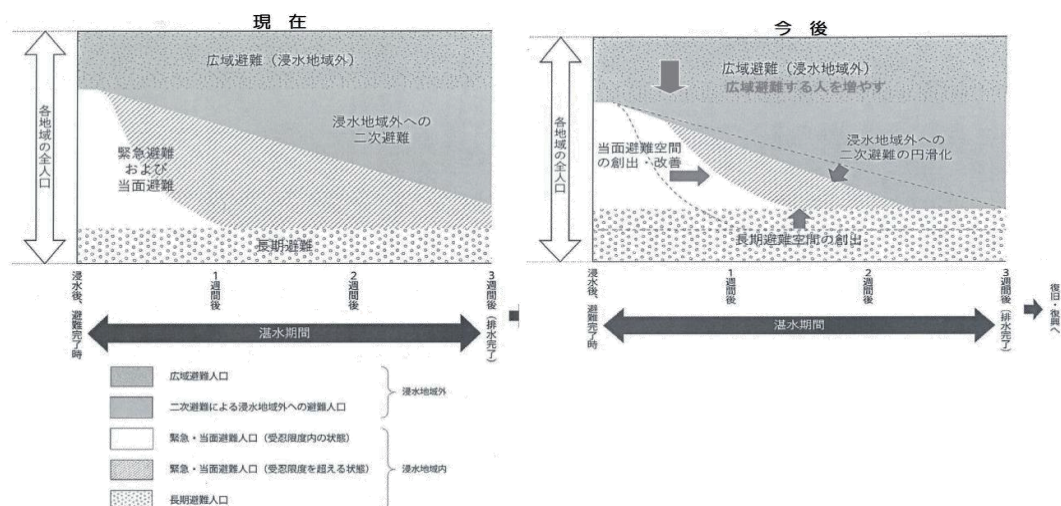
人気シリーズ映画「男はつらいよ」の主人公・寅さんの故郷としておなじみの柴又、通称“こち亀”。両さんが奮闘するその舞台となっている亀有、「キャプテン翼」のゆかりの地である四ツ木、都内で唯一の水郷景観を誇る水元公園、江戸の名所のひとつであった堀切の花菖蒲、さらにはモンチッチ、リカちゃんなどなど、葛飾区内には観光スポットやキャラクターが溢れています。

そんな平時には賑わいを見せる下町かつしかですが、近年、全国各地で頻発する大規模な水害により、その対策が急務となっています。

去年は、検討中の浸水対応型市街地のイメージについて寄稿しました（☞24号 P.86-87）が、今回は6月にまとめる予定の「浸水対応型市街地構想」についてです。

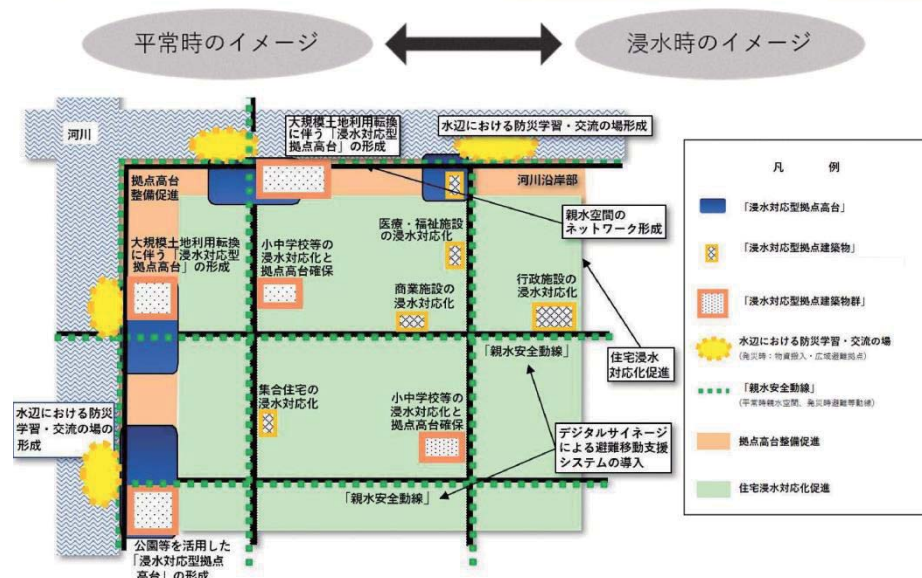
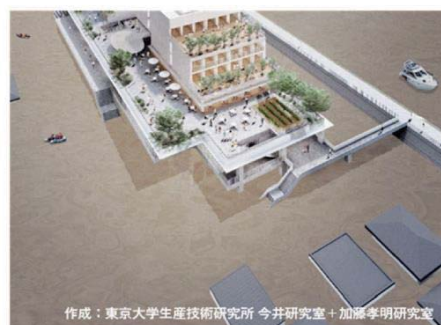
本区は、東京東部低地に位置し、海面より低い土地が広がっています。下水道の整備や堤防整備などの治水対策の進展により、カスリーン台風以降大きな水害は発生していませんが、地球温暖化に伴う気候変動の影響により、今後さらに台風の大型化や大雨の発生頻度の増加が進み、大規模な水害が発生する懸念が高まっています。

これまで、洪水・高潮氾濫からの大規模・広域避難検討WGや江東5区広域避難推進協議会において、広域避難の実現に向け取り組んできましたが、リダンダンシーの確保が不可欠となります。そこで、当面は広域避難ができなかった住



民が緊急的に垂直避難できる空間を確保し、将来的には空間の質を上げることで、水が引くまでの間、許容できる生活レベルが確保できるようにし、広域避難と垂直避難を組み合わせることで、区民の安全・安心を確保していくのが「浸水対応型市街地構想」となります。

また、避難所となる公共施設の浸水対応型拠点建築物への改修案や、新小岩公園の防災機能の強化の検討、西新小岩地区高規格堤防整備に向けた設計など、具体的な施策が動き出します。



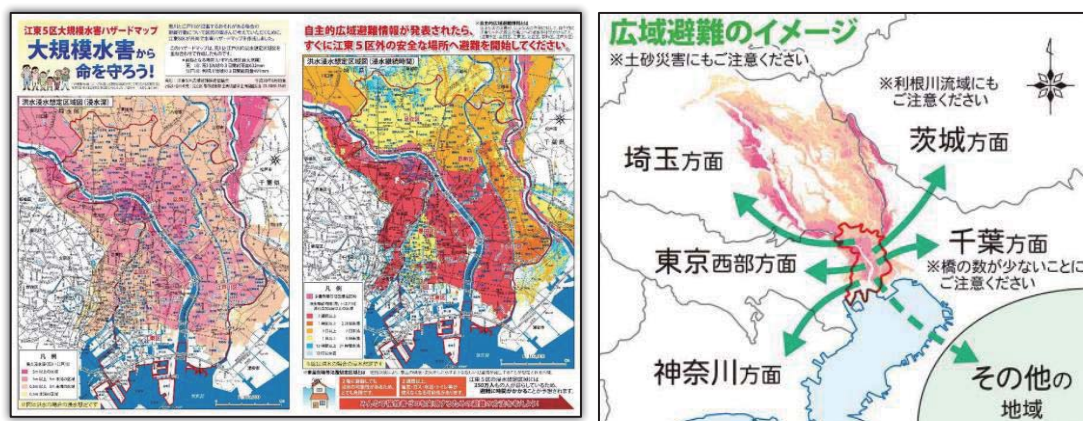
引き続き、地域の皆さんと連携し、川の手・人情都市「かつしか」の実現に向けて取り組んでいきます。

江東 5 区大規模水害ハザードマップを作成しました

大田 聖家

葛飾区 危機管理課 災害対策係

江東 5 区（墨田区、江東区、足立区、葛飾区、江戸川区）では、河川洪水と高潮が同時に発生する最悪の事態を想定して、平成 30 年 8 月に江東 5 区大規模水害ハザードマップと大規模水害広域避難計画を合同で公表しました。



大規模水害発生時には、近くの高い建物へ避難をする垂直避難では、長期間にわたって浸水区域にとどまることとなるため、生命の危険もあります。犠牲者ゼロを達成するためには、発災前の安全な段階において、浸水が想定される区域に居住する全ての区民が、区外を含む浸水しない区域に広域避難をする必要があります。

江東 5 区では、気象予報等から、複数河川の氾濫や東京湾での高潮の発生が想定される 3 日前から、大規模水害への共同検討を開始することとしました。

また、大規模水害発生 の 2 日前には自主的広域避難情報を発表し、大規模水害発生 の 1 日前には広域避難勧告を発令することとしました。

江東 5 区では、国や都等と連携をして、非浸水地域の自治体と避難の受入れについて協議を進めていますが、具体的な場所は、まだ特定できていません。避難場所を開設できたとしても限りがあり、また混雑してプライバシーを確保することも難しいです。

そのため、早めに浸水しない地域の親戚・知人宅やホテル、勤務先等の自主避難先に避難をするように、お願いをしています。

今後も広域避難の実効性を高めていくために、江東 5 区で連携をして検討を進めてまいります。

高規格堤防整備の推進に向けて

塚原 千明

国土交通省 荒川下流河川事務所 沿川再開発課長

1. はじめに

荒川の下流域には、我が国の人口・資産等の多くが集積しているため、洪水等による堤防の決壊により、人的・経済的に甚大な被害を招く恐れがあります。特に荒川の河口から約 0.5～7.0km の一帯（中川左岸含む）は地表面の標高が満潮時の海水面よりも低い土地、いわゆるゼロメートル地帯が広がっており、仮に堤防が決壊すると地表面が海水面より低いため、自然排水が困難であることから、浸水が長期にわたるなど深刻な被害が想定されます。

国土交通省では、人口・資産等が高密度に集積する首都圏及び近畿圏のゼロメートル地帯の低平地において、「人命を守る」ということを最重視して、想定を超える大規模な洪水に対しても堤防の決壊を回避するため、堤防の幅を高さの 30 倍程度とする幅の広い高規格堤防の整備を推進しています。

2. 高規格堤防整備の役割

高規格堤防の整備により、堤防決壊による壊滅的な被害の発生を防ぐことができます。なお、一部区間が整備された場合でも、災害時の避難場所や活動拠点として活用されるほか、計画規模を超える洪水等による堤防の決壊に対する安全性が向上するとともに治水上の効果を含め多様な効果が期待されます。

また、高規格堤防は、地方公共団体等が実施する土地区画整理事業や市街地再開発事業等、民間事業者による工場跡地におけるマンション建設等の土地利用転換といったまちづくりと連携して整備されることが多く、堤防における機能の向上だけでなく、安全・快適な都市の形成に資することが期待されています。

昨今では、高規格堤防整備を更に推進するに当たって、民間事業者が高規格堤防整備事業に参加しやすい環境を整えるため、民間事業者による堤防の川裏法面敷地を一体的に活用することを可能としています。更に、平成 31 年度には税制改正として、高規格堤防整備事業の区域に従前権利者が新築する家屋の固定資産税を減税する制度を新たに創設しました。

3. おわりに

荒川下流河川事務所では、足立区新田一丁目地区、同区小台一丁目地区及び葛飾区西新小岩地区（平成 31 年度新規）等で高規格堤防事業を推進しています。また、高規格堤防整備のほか、京成本線荒川橋梁の架替えや高潮堤防等の整備を実施しております。首都圏を災害から守り、安心して暮らせる荒川流域を目指して取組みを進めて参ります。

平成 30 年度 東新小岩七丁目町会 「“犠牲者ゼロ”の実現に向けたワークショップ」

東新小岩七丁目町会

東新小岩七丁目町会では、2016 年度から 2017 年度にかけて、内閣府や葛飾区、NPO ア！などと共同で広域避難の実現可能性に関するアンケート調査やヒアリング調査、啓発パンフレットの作成などの取り組みを行ってきました。

2018 年度はこの流れを引き継ぎ、葛飾区の事業として「“犠牲者ゼロ”の実現に向けたワークショップ」を行いました。2018 年度の取り組み内容は、主に「広域避難訓練の実施」「マイタイムラインの作成」の 2 点です。

1. 広域避難訓練の実施

荒川の氾濫や東京湾の高潮などの大規模水害が予測される場合、新小岩などのゼロメートル地帯では、近隣の高い建物に避難した場合でも数週間以上という長期にわたり、電気や水道等が使えない中で浸水域に取り残されるおそれがあります。そこで、浸水前にゼロメートル地帯を脱出して、東京の西部や千葉方面などの土地の高いエリアに避難する「広域避難」の必要性が指摘されています。

東新小岩七丁目町会では、この広域避難の実現可能性についての調査を続けてきました。今回は実際に町ぐるみでの**広域避難訓練**を行うことにより、地域住民に広域避難の意義を知ってもらうとともに、避難移動の際の課題点を見つけ出すことを狙いました。実施日は 2018 年 11 月 25 日（日）、移動ルートは、まず二上小学校から新小岩駅まで歩き、JR 総武線と山手線を乗り継いで、上野公園*1 に集合するというものです。

今回の避難訓練を通して、

- ・ お年寄りや車いすの方などを含めて集団で徒歩移動すると、新小岩駅まで**通常の倍以上の時間を要すること**
- ・ 乗換駅では、人によってはエレベーターでの移動が必要だったり、トイレに寄る必要があるため、**事前に移動経路やトイレの位置等を確認しておく必要があること**

などが明らかになりました。

その後、上野公園に集合して点呼・講評を行った後、バスで本所防災館に移動し、暴風雨や都市型水害などの体験を行いました。詳しい行程や参加者の感想などは、次ページの「**活動報告**」に掲載されていますのでご覧ください。

平成30年度（2018年度） 東新小岩七丁目町会 活動報告

大規模水害から命を守るための「広域避難訓練」を実施しました！

東新小岩七丁目町会は、平成28年度に内閣府「災害・避難カード」事例集のモデル地区に選ばれ、平成28年度・平成29年度・平成30年度は、内閣府や東京都、葛飾区等とともに、大規模水害が発生する可能性がある時の避難方法等を検討しています。

平成30年度は平成29年度までの取組を踏まえ、東新小岩七丁目町会独自の「大規模水害から命を守るための「マイ・タイムライン」（事前防災行動計画）」の制作や「広域避難訓練」を行いました。

事前準備をして
命を守ろう！



大型の台風の影響により、荒川・江戸川の洪水や東京湾の高潮など、葛飾区でも大規模な水害が起こってしまう可能性があります。

東新小岩七丁目町会のみなさん、「大規模水害のパンフレット」や「マイ・タイムライン」を活用して、いざという時のために、一緒に準備をしませんか？

9時25分 広域避難勧告発令後を想定し、家を出発

<訓練実施日：2018年11月25日（日）>

9時30分 二上小学校のピロティに集合・受け付け開始

◆1歳から93歳まで総勢78名が参加しました！

今回は広域避難を行う際の“移動の課題を把握するための模擬訓練”という位置づけで、江東5区外にある“上野公園”を広域避難先としました。



9時50分 二上小学校から新小岩駅までの“徒歩での移動訓練”

◆広域避難勧告が発令された時の状況を想像しながら移動しました！
・たくさんの方が一斉に避難を行うとき
・雨風がやや強いとき・荷物が多いとき等



集団で移動をすると約30分
（少人数だと10分程度）



10時20分 新小岩駅から上野公園までの“電車を利用した移動訓練”

【新小岩駅】10時25分頃～10時30分頃の電車の新小岩駅を出発

◆切符購入検証証は、世帯毎におつりのないよう小銭を準備し、16人全員が1つの券売機を利用したところ、全員が購入し終えるまでに5分ほどかかりました。

☺事前にICカードにお金をチャージしておくことでスムーズです。



【秋葉原駅】10時50分頃～11時00分頃の電車から秋葉原を出発

◆秋葉原駅の駅構内での移動経路は、班の参加者のお体の状態や本人の意向を確認し、班長が決定。

☺一緒に避難をする人が“無理しないで移動できる駅・経路”を事前に把握しておくことも“備え”の1つです。



【上野駅】10時55分頃～11時10分頃に改札口を通過

◆階段だけを利用して移動した班、エスカレーターを利用した班、エスカレーターを利用・トイレ休憩をとった班、エレベーターを利用した班の順に上野公園に到着しました。☺乗換駅のトイレの場所も知っておくと安心です。



11時05分頃～11時20分頃 上野公園に到着

新小岩駅出発から上野公園到着まで
45分～60分（乗車18分）

ポイント！

11時20分 点呼完了後、講評

◆今回の広域避難訓練のように、水害が発生する前に早期の広域避難を行うことが最善の対策となります。皆さんには家に帰ってそのことをぜひ考えていただき、自主的に避難先を見つけていただきたいと思います。

- ✓ 事前に自主避難先の候補を見つける（親戚・友人宅、ホテル等）
- ✓ マイ・タイムラインを活用し、身近な人と避難の仕方を相談する
- ✓ 災害の可能性情報や避難等の情報を収集する
- ✓ 人が多いと移動に時間がかかるので、早め早めの避難を心がける

本所防災館での防災体験

都市型水害体験

暴風雨体験



大規模水害の時に避難が遅れて浸水エリアに留まってしまうと、どんな状況になる…？



- ✓ 自動車や玄関などのドアが水圧で開かなくなる。
- ✓ 看板が飛び、通常速度で車の運転が困難になる風（平均風速30m/s以上）が吹いたり、道路が川のような雨（時間降水量50mm/h以上）が降る。道路が冠水すると、濁った水の中にガラス・木の枝などが入っていて、移動が難しい状況。
- ✓ 電気・ガスなどのライフラインが止まり、トイレも使用できなくなる。

全員で本所防災館で昼食



広域避難訓練の感想

- ◆七丁目の近所の付き合いのない方達と交流が出来ました。もしもの時は全てが見失うこともあるので近所で自然的な交流が必要。
- ◆早めに遠方に避難することが大切だと思いました。（水圧がかかるとドアも開けられないことを体験）
- ◆平時は概ね予定通り移動（避難）できることがわかったのがよかったと思います。
- ◆子供、大人、老人いろんな年代の人が参加して、それぞれに気を使ったり思いやりを持って行動できて良かったと思います。
- ◆自分に何が出来るかをもっと知っておかないといけないと思いました。
- ◆町会単位の訓練としては多くの方に参加頂けたと思います。ただ、実際の災害を想定して移動する人数は規模もちがうと思われるので広域避難はまだまだ課題は多いと思います。地域への災害に対する意識の啓発など今後も皆さんの取り組みに期待しています。

2. 「マイタイムライン」の作成

これまで広域避難の実現性について検討を行ってきましたが、いざ大雨が降ったときに、その場で避難のタイミングを判断するのは難しいものです。そこで、事前に気象庁や自治体などから発表される情報や実際の降雨の状況などに応じて、自分や家族がその時にとるべき行動を考えておき、それを時系列の表にまとめた「マイタイムライン」を作成しておく、いざというときに役立ちます。

もともと「タイムライン」は、2012年にアメリカ・ニューヨークをハリケーン・サンディが襲った際に、事前に各機関の動きが想定されており、計画的な避難の呼びかけ等により被害が軽減されたという事例を受けて、日本でも近年、行政や各機関の対応を時系列に沿って逐一決めておこう、ということで始まった取り組みです。「マイタイムライン」は、それを各家庭においても実践しようというものです。

平成30年度のワークショップでは、東新小岩七丁目町会オリジナルの「マイタイムライン」のひな型を作成しました。これには、気象庁や自治体の情報とともに、その時の町会の対応が書き込まれており、より身近な状況を想定しながら「我が家の備え」を横に書き込めるようにしました。

東新小岩七丁目町会では、このオリジナルの「マイタイムライン」を、今年度各戸に配布し、またその作り方についての講習会も行う予定にしています*2。ワークショップでマイタイムラインの“ひな型”はできましたが、実際にいざという時の判断に役立てるためには、各家庭で話し合い、書き込んで“完成”させることが必要です。特に、家族の身体的状況や会社・学校の状況、親戚等の避難先の有無など、各家庭の状況に合わせた検討を行っておくことが重要です。

東新小岩七丁目以外にお住まいの方も、これを参考に、自分の地域や家族の状況に合わせて、「いつ」「どんな」行動をとるべきか、この機会に「マイタイムライン」の形でまとめてみていただければと思います。

- *1 今回の広域避難訓練では、徒歩や公共交通機関を使った避難移動の際の課題を明らかにすることを目的としていました。

上野公園は、浸水が長期化するおそれの小さい高台にあるほか、秋葉原駅での乗り換えにおける課題を明らかにできること、点呼を取るための空間が確保できることなどから、今回の目的地に設定しました。

実際の水害時には上野公園に避難すればよいというわけではなく、さらに親戚・知人宅や公共施設などの避難先を確保する必要があります。

- *2 平成30年度の出前授業では、大人の「マイタイムライン」づくりの先取りとして、小学生が自分の「マイタイムライン」を考える取り組みをしました。これについては、☞P.65-67 で取り上げていますのでご覧ください。



※河川が氾濫するおそれがある場合には、葛飾区が避難情報を発令しますが、それよりも前に江東5区が合同で避難情報を発令することもあります。

原則は、公共交通機関を利用して、東京の西部方面や千葉方面へ避難 江東5区（葛飾区、墨田区、江東区、足立区、江戸川区）が合同で避難情報を発令するケース 猛烈な台風が東京地方に接近し、 高潮や複数河川の氾濫 といった大規模水害のおそれがある場合等 ※大規模水害が起きる2日～1日前に発令				原則は、公共交通機関等を利用して、中川・新中川より東側の地域へ避難 葛飾区が単独で避難情報を発令するケース 河川上流部の長雨で、葛飾区を流れる 荒川が氾濫 するおそれがある場合 ※荒川の氾濫が起きる半日～数時間前に発令			
氾濫までの時間	黒：気象・水害情報 赤：江東5区 紺：葛飾区	東新小岩七丁目町会の動き	我が家の備え マイ・タイムライン	氾濫までの時間	黒：気象・水害情報 赤：江東5区 紺：葛飾区	東新小岩七丁目町会の動き	我が家の備え マイ・タイムライン
平時	□ 気象情報を毎日発表	● 事前に自主避難先の候補を見つける（親戚・友人宅、ホテル等）		平時	□ 気象情報を毎日発表	● マイ・タイムライン を活用し、身近な人と避難の仕方を相談	
3日前	□ 江東5区が共同で、大規模水害の検討を開始し、記者発表を行う 	● 気象情報等を収集し、町会内で情報共有 ● 町会で作成している世帯毎の台帳「災害避難指示覚書」を確認し、要配慮者のいる世帯に注意喚起 		数日前～1日前	□ 天気予報等で水害の可能性を発表 	● 気象情報等を収集し、町会内で情報共有	
2日前	□ 江東5区が共同で、自主的な広域避難の呼びかけを行う 	● 町会員に江東5区外への自主避難を呼びかける 声かけあい避難 		半日前	□ 荒川が氾濫注意水位に到達 □ 避難準備・高齢者等避難開始を発令 	● 東新小岩七丁目町会保有の ゴムボート を所定場所に運ぶ	
1日前	□ 特別警報可能性情報 □ 江東5区が共同で、広域避難勧告発令 ※公共交通機関を利用できる段階で発表	● 町会員に江東5区外への広域避難を呼びかける		6時間前	□ 荒川が避難判断水位に到達 □ 避難勧告を発令 □ 避難指示（緊急）を発令	● 指定された町会役員等は二上小学校に参集し、避難所を開設 ● 避難所等の情報を町会員に伝達 水のたまりやすい所には十分注意！ 	
大規模水害発生	● 荒川が氾濫 □ 氾濫発生情報 □ 避難情報解除	● 東新小岩七丁目周辺では浸水3～5m（想定）2週間以上 	いざ、二上小学校に避難しても思わぬコトが起るかも… 	3時間前	□ 荒川が氾濫危険水位に到達 荒川が氾濫 □ 氾濫発生情報 □ 避難情報解除	● ※浸水しない場所まで避難する時間がない時助け合って、できるだけ安全な上層階へ ● 使えなくなる可能性があります 	地震とは違い、水害はある程度、事前に予測ができるため、事前準備をして早めに避難すれば命は助かります！

“我が家の備え マイ・タイムライン（私の事前防災行動計画）”の使い方について

◆マイ・タイムラインとは？

“台風の接近や長雨によって河川の水位が上昇する時に
自分自身がとる防災行動を時系列にまとめたもの”です。

子どもの成長や家族の病気の状態などを考慮し、**自分や家族に合った避難のしかたを**考えることや、定期的にタイムラインを見直し、修正することがとても大切です。

「誰が」「何を」「いつ頃」行かを明確にしておくことで、いざ！という時に意思決定がしやすくなり、迅速な防災行動を取ることができるようになります。マイ・タイムラインを作成し、冷蔵庫等の家の中の目立つ所に貼っておきましょう！

広域避難のイメージ



◆広域避難とは？

浸水域外となる**江東5区**（葛飾区、墨田区、江東区、足立区、江戸川区）
以外の地域へ避難すること。

もしもの時に
東京西部方面など
浸水域外に避難
できるよう、事前
に準備しましょう



◆マイ・タイムラインの書き方

家族の病状などを踏まえ、
「誰が」「何を」「いつ頃」行かを明確にし、
“我が家の備え”欄に記入しましょう！

1. の1～22の文章を参考に、ご自身のマイ・タイムラインに行動内容を記入
 2. 一通り書き終えたら、漏れがないかチェック
 3. 毎年1回は家族みんなで内容を確認し、成長や病状等に応じて再検討
- 雨の季節に入る前の再確認がオススメ！

我が家の備え マイ・タイムライン 作成のポイント

下線：要配慮者のいる
世帯は特に注意

A 気象状況によって
氾濫するまでの時間
は変わります。
最新の避難情報に
注意しましょう。



B 自主的な広域避難
の呼びかけが
発表されたら、
できるだけ自主
避難先に避難し
ましょう。

C 広域避難勧告発
令後は、3階以上
にお住まいの
方もすぐに江東
5区外へ避難し
てください。

原則は、公共交通
機関を利用して、
東京の西部方面や
千葉方面へ避難

江東5区（葛飾区、墨田区、江東区、足立区、江戸川区）が
合同で避難情報を発令するケース
猛烈な台風が東京地方に接近し、高潮や複数河川の氾濫
といった大規模水害のおそれがある場合等
※大規模水害が起きる2日～1日前に発令

氾濫 までの 時間	黒：気象・水害情報 赤：江東5区 紺：葛飾区	東新小岩七丁目町会 の動き	我が家の備え マイ・ タイムライン
平時	□ 気象情報を毎日発表	● 事前に自主避難先の 候補を見つける（親 戚・友人宅、ホテル等）	1,2,3
3日前	□ 江東5区が共同で、 大規模水害の検討を 開始し、記者発表 を行う	● 気象情報等を収集し、 町会内で情報共有 ● 町会で作成している 世帯毎の台帳「災害 避難指示覚書」を確認 し、要配慮者のいる 世帯に注意喚起	4,5,6,7,8,9, 10
2日前	□ 江東5区が共同で、 自主的な広域避難 の呼びかけを行う	● 町会員に江東5区 外への自主避難を 呼びかける	11,12,13,14
1日前	□ 特別警報可能性情報	● 町会員に江東5区外 への広域避難を呼び かける	15,16,17,18, 19
大規模 水害発生	□ 江東5区が共同で 広域避難勧告を発令 ※公共交通機関を利用 できる段階で発表	● 町会員に江東5区外 への広域避難を呼び かける	20,21
	□ 氾濫発生情報 □ 避難情報解除	● 東新小岩七丁目町会では 浸水3～5m（想定） 2週間以上	22 いざ、 二小小学校に 避難しても 思わぬコトが 起こるかも...

D 避難準備・
高齢者等避難
開始が発令さ
れたら、お休
みの不自由な
方や乳幼児等、
移動に時間か
かる方は、
避難をしま
しょう。

E 避難勧告が発
令されたら、
一般避難者は
速やかに避難
をしてください。

F 避難指示（緊急）
発令時に
まだ避難して
いない一般避難
者は、直ちに
避難行動を
開始してくだ
さい。
※室内から室外
の様子を確認し、
外が危険な場合
は、屋内の高い
ところに避難を
しましょう。

原則は、公共交通
機関等を利用して、
中川・新中川より
東側の地域へ避難

葛飾区が単独で避難情報を発令するケース
河川上流部の長雨で、葛飾区を流れる荒川が氾濫する
おそれがある場合
※荒川の氾濫が起きる半日～数時間前に発令

氾濫 までの 時間	黒：気象・水害情報 赤：江東5区 紺：葛飾区	東新小岩七丁目町会 の動き	我が家の備え マイ・ タイムライン
平時	□ 気象情報を毎日発表	● マイ・タイムライン を活用し、身近な人 と避難の仕方を相談	1,2,3
数日前 ～1日前	□ 天気予報等で水害の 可能性を発表	● 気象情報等を収集し、 町会内で情報共有	4,5,6,7,8,9, 10,11
半日前	□ 荒川が氾濫注意水位 に到達 避難準備・高齢者等 避難開始を発令	● 東新小岩七丁目町会 保有のゴムボート を所定場所に運ぶ	12,13,14,15, 16,17
6時間前	□ 二小小学校での 避難所開設の判断 を行う	● 指定された町会役員 等は二小小学校に参 集し、避難所を開設 ● 避難所等の情報を町 会員に伝達	18,19
3時間前	□ 荒川が避難判断水位 に到達 避難勧告を発令	● 水のたまりやすい所には 十分注意！	20,21
水害発生	□ 荒川が氾濫危険水位 に到達 避難指示（緊急）を 発令	● ※浸水しない場所まで 避難する時間がない時 助けて、 安全な上層階へ 逃げなさい	22 地震とは違い、水害は ある程度、事前に予測 ができるため、事前準 備をして早めに避難す れば命は助かります！

避難行動

14. 電車や道路が混む
前に早期避難
※救援標識旗を
掲げてから避難
15. 自主避難先や区が
立ち上げた避難所
までの経路を確認
16. お身体が不自由な
要配慮者は、自動
車で広域避難
17. 自力で避難できな
い要配慮者を近所
の人と二小小学校
の3階・4階に連れ
て行く
18. 電車等の公共交通
機関で広域避難
19. 避難する道中で電
気が付いている等、
避難していない様
子の家があれば、
避難を呼びかける
20. 避難が遅れた場合
は、洪水緊急避難
建物等の高い建物
に避難

事前準備

1. 家族と広域避難について話し合う
2. 自主避難先の候補を見つける
（ペットホテル・旅館等も含む）
3. 防災グッズ・生活必需品の備蓄
（地震や急な停電にも役立つ！）

情報収集

4. 気象情報や避難情報等を確認
5. 家族全員の予定を確認し、広域避難について話す
6. 自主避難先までの行き方を確認
7. 避難時に介助しなければいけない家族や近所の人を
思い浮かべ、勤務先や周りの人と相談

避難の準備

8. 常備薬等、避難時の持ち物を準備
9. 親戚・友人宅に避難することを依頼
10. 浸水しない場所のホテル等を確保
11. 風で飛ばされそうなものを室内へ・側溝を掃除
12. 避難をする前に交通情報や浸水情報等を調べる
13. 避難情報が発表されたことを近所の要配慮者に伝達

その他

21. どうしても自宅に留まらざるを
得ない場合は、長期の浸水と電
気・水道・ガスの途絶に備える
22. 荒川が氾濫しても、自宅が浸水
せずに避難情報が解除されたら、
帰宅する



氷河？の融解と海水面の上昇の話など
ゼロメートル市街地を考えるのに興味深い
話だった。もっと勉強したい！



2018年6月のNP0ア！総会の講演から（講演者：第58次南極地域観測隊 岡田雅樹隊長）

事務局から



しんすい！まなぶ号に乗る古川恵吾くん
（総会では写真班！）



総会の準備中、談笑する
事務局メンバー＋青柳勇さん



しんすい！まなぶ号 進水式

NPO ア！のホームページリニューアルについて

古川 修

NPO 会員の古川修です。2019 年 6 月現在、ホームページの改修をすすめています。

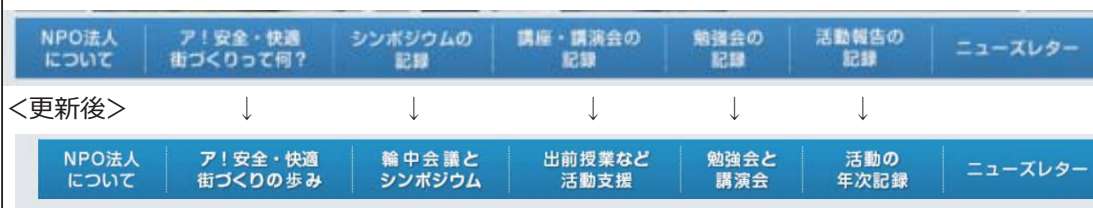


キービジュアルを現在の活動内容に合わせて更新しました

新しい分類に合わせて内容の説明などを追加しています。

現在の活動内容に合わせて、ナビゲーションバー部分の再編を行いました。

＜今までのナビゲーションバーの項目＞



※現在の活動に合わせた項目に再編しました

上記のように現在の NPO が行っている輪中会議や出前授業などの活動にあわせたページの分類構成に変更いたしました。新しい分類に伴う内部の記事の引っ越しや、記事の追加については今後、随時行っていくます。ぜひお見逃しなく。当 NPO の活動内容をより広くを知ってもらえるような場所として使っていただければと思います。

「天サイ！まなぶくん 葛飾区版」のリニューアルについて ＜告知＞



「天サイ！まなぶくん 葛飾区版」について、区を流れる各河川や高潮の最新の浸水想定に基づいて情報を更新・追加し、首都直下型地震による火災や倒壊危険度についても最新のデータに更新、避難所などの項目を新たに追加することになりました。リリースは 2020 年 3 月を予定しています。リリースして 6 年半で初めて的大幅アップデートとなります。お楽しみに。

平成 30 年度（上期）葛飾区地域活動団体助成事業 「親から子に語り継ぐ大水害時の避難について」（報告）

増澤 一朗

NPO ア！安全・快適街づくり

当 NPO は、平成 23 年 3 月 11 日発生の東日本大震災を機に、新小岩北地区の小学校や保育園また、上平井中学校で未曾有の大雨で荒川・中川が決壊した際、「命だけは助かる。」を合言葉に出前授業、講演会・パネル展示、クラブ活動支援等の多彩な事業を毎年、葛飾区の助成を受けながら展開している。

平成 30 年度も、4 小学校へ出前授業を、或いは 1 保育園・1 学童保育室への講演会とパネル展示、そして上平井中学校地域防災ボランティア部へのクラブ活動支援を行った。これらの事業を支えているスタッフは、東新小岩七丁目町会の中川町会長さんを始め、地元町会役員の方々や東京大学加藤研究室の研究者、芝浦工業大学中村先生、荒川学会員の寺島先生方である。

出前授業や講演会・パネル展示等は、万が一荒川・中川が決壊し、街に水があふれ出た際の避難行動（☞P.65-67 実践報告）を中心に、新小岩の地形や災害の歴史、水が持っている恵みと脅威を分かり易く説明している。

このため、授業を受けた児童生徒・保護者或いは講演を聴いた父兄は自然な形で、地盤沈下・ゼロメートル地帯・垂直避難等といった低地帯が抱える地域特性を認識し、理解するようになる。その結果、想定外の大水害や大地震の際にも適時適切に対応し、行動出来ると期待している。

よって地域に定着し、次世代へとつなぐ役割を担う本事業を、葛飾区の助成を受けた上で、本年度も行う予定である。

平成 30 年度 葛飾区地域活動団体助成事業 実施状況

No.	日時	場所	講師	対象	備考
1	10/20（土）09:45-10:05	上平井中学校	南（事前助言）	全校	学芸発表会
2	11/10（土）09:20-10:05	二上小学校	寺島	6 年	出前授業
3	11/17（土）10:10-11:45	上小松小学校	中川・塩崎	5 年	出前授業
4	12/01（土）10:00-11:30	うらら保育園	中村・学生	保護者・職員	出前授業
5	01/19（土）09:20-10:05	二上小学校	中川・塩崎	5 年	出前授業、WS
6	02/16（土）10:15-11:00	松上小学校	竹本・南	5 年	出前授業、WS
7	02/16（土）11:05-11:50	松上小学校	竹本・南	3 年	出前授業
8	03/09（土）08:25-09:10	上平井小学校	竹本・南	4 年	出前授業、WS
9	03/09（土）09:15-10:00	上平井小学校	南・金	6 年	出前授業、WS
10	03/09（土）11:05-11:50	松上小学校	寺島	6 年	出前授業

※WS：ワークシート実施

出前授業に参加した児童たちの感想 《3年生》

平成31年2月16日(土)
松上小学校 出前授業 感想用紙 竹本防火防災部長、南講師
第3学年()組()番 名前()

☆ 先生のお話を聞いて学んだこと、実際にしてみたいことなどを書きましょう。

たいふうがくる3日前からたいさくをすることが分りました。
たいふうがくる3日前、食なうをあつめて1日前電車が重かいていたらとあくへにける。
たいふうがくると聞いたたいさくをすることをします。

☆ お話を聞いてもっと知りたいこと、調べてみたいことなどを書きましょう

たいふうがくる3日前食なうはおにぎり水と何がありますか。
たいふうがくる1日前とをくに電車でにげようとするときもし行く場まで電車が重かくなからたらどうするんですか。
6時間前とないと思えば、戸外に水害が通たらどうするんですか。

平成31年2月16日(土)
松上小学校 出前授業 感想用紙 竹本防火防災部長、南講師
第3学年()組()番 名前()

☆ 先生のお話を聞いて学んだこと、実際にしてみたいことなどを書きましょう。

川の水が山からきていることは、はいめてしりました。
さいしよは川の水は海からきたと思いたけど先生の言葉を聞いたたら山からきていると言っていたのですごくびっくりしました。

☆ お話を聞いてもっと知りたいこと、調べてみたいことなどを書きましょう

地しんかがきたらどこにけられはいいか、水かいかきたらどこへにけられはいいか
くわしくをいて本当にさいかがかおこたらその先生に聞いたこととして家族と生きのこりたい。

平成31年2月16日(土)
松上小学校 出前授業 感想用紙 竹本防火防災部長、南講師
第3学年

☆ 先生のお話を聞いて学んだこと、実際にしてみたいことなどを書きましょう。

わたしは、先生の、お話を聞いて、洪水は、こわいかなと思いました。
なぜなら、わたしは家の3階にすんでいて、2階まで来るけど、3階は来ないと思っていたけど、電気がとあていなしゆで、たべものや水がひやせないのど、くさってしまい食べものがないという戸かがこわいと思いました。

☆ お話を聞いてもっと知りたいこと、調べてみたいことなどを書きましょう

わたしは、なぜ、たいふうや洪水が、できるのかを、言風べておきたいと思いました。
なぜなら、昔のカスリーン台風では、とても、いりよくがくるで、ほかの、台風とは、おあまかにちかくて、それを、ふしぎに思ひ、なぜだろう。と思っていたからです。

平成31年2月16日(土)
松上小学校 出前授業 感想用紙 竹本防火防災部長、南講師
第3学年()組()番 名前()

☆ 先生のお話を聞いて学んだこと、実際にしてみたいことなどを書きましょう。

一番さいごのお話で、ふたことは、じっさいの時にいかしてやってみようと思いました。モニターにもありましたが、タカ本先生たちのグループといっしょにボートに乗ってにけるくんれんを、さいにやってみたいと思いました。

☆ お話を聞いてもっと知りたいこと、調べてみたいことなどを書きましょう

お話を聞いて、3日前にはスーパーなどで食料や水分のあるものをかておくことを目あすにして、1日前は荷物をまとめてさいしやうかくにをすることを目あすにします。6時間前はでん車などで遠くにいくこと。
この3つのことを大せかにしたいと思ひます。

《5年生》

平成31年1月19日(土)
二上小学校 出前授業 感想用紙 中川町会長、塩崎講師
第5学年()組()番 名前()

☆ 先生のお話を聞いて学んだこと、実際にしてみたいことなどを書きましょう。

オランダには行かないけど中川や江戸川、あら川にオランダみたいなイベントを作ってみないかと思った。カスリーン台風のときにUSA(アメリカ)の消防団が月力けてくれたのは矢張りかた。

☆ お話を聞いてもっと知りたいこと、調べてみたいことを書きましょう

ぼくはお話を聞いて水害の時の注意点をずっと知りたくなった。あと、水害にそなえる物とかも、もっと調べてみようと思った。

平成31年2月16日(土)
松上小学校 出前授業 感想用紙 竹本防火防災部長、南講師
第5学年()組()番 名前()

☆ 先生のお話を聞いて学んだこと、実際にしてみたいことなどを書きましょう。

水害についてまだ分からないことはたくさんあるけれど、まずこころがけなければいけないこととして防災用具を常に常備し、それぞれの川のはんらんによって、どの地域がどれだけ水害するのかなどを調べてみたいですね。

☆ お話を聞いてもっと知りたいこと、調べてみたいことを書きましょう

上馬島町の先生に進められた、天才まなぶくん、というアプリを使って、いらべたところ、荒川がはんらんした場合、松上小は5mの水深まですいしん、僕の家は2mの水深まですいしんすることが分かりました。他の地域も調べてみたいです。

平成31年1月19日(土)
二上小学校 出前授業 感想用紙 中川町会長、塩崎講師
第5学年()組()番 名前()

☆ 先生のお話を聞いて学んだこと、実際にしてみたいことなどを書きましょう。

先生のお話を聞いて水害のつらさや、大変さを知りました。そして川の近くでの生活は「危険」と「豊かさ」の両方があることを知りました。そして先生の言っていた、ボートを垂たことがないので、そういう体験があれば、ボートに垂てみたいです。そして水害の大変さを知りたいです。

☆ お話を聞いてもっと知りたいこと、調べてみたいことを書きましょう

お話を聞いて(中川さんの)やねの上で中川さんたちは3週間くらしたそうです。なので、やねの上でくらす3週間はどのくらい大変だったのかも、知りたいです。もっと調べてみたいことは、地下水のくみ上げすぎたのが原因で地面が4~5mも低くなったことを調べたいです。

平成31年2月16日(土)
松上小学校 出前授業 感想用紙 竹本防火防災部長、南講師
第5学年()組()番 名前()

☆ 先生のお話を聞いて学んだこと、実際にしてみたいことなどを書きましょう。

災害はいつ、どこで起きるかわからないから、ここにいるときはここにける。などとええからにける場所を決めておくことがよいということを知った。じつはいここのうしろ、たまたまうするのをためしてその場所で災害が起きた時にためした時のようにうごければ、たまたまうするから、れんしゅうをしめなえておきた。

☆ お話を聞いてもっと知りたいこと、調べてみたいことを書きましょう (9/15)

3日前、1日前、6時間前など実際に考えたこともないことを考えてみると、かならずおいておくことがたくさんあった。3日前とかから考えると、じつぜん決まらないことも出てくるかもしれないが、じつぜん決めておくことが大切。

出前授業の感想に関する補足

NPO ア！安全・快適街づくりニュース vol.25 編集担当

ニュースレター25号 P.104-105 に掲載されている感想文は、2018 年度の出前授業に参加した各小学校の児童のものである。この感想文は、毎度の出前授業終了後に担任の先生を通して各児童に配布し、家庭に持ち帰って記入の上、後日提出してもらっている。

これを読むことにより、授業の率直な感想をフィードバックとして得ることで、子供たちにどこまで伝わったか、どこに関心を持ってくれたか、といったことが見て取れ、次の授業の改善につなげることができる。さらに、授業を受けて、家庭内で防災学習アプリ「天サイ！まなぶくん」を使ってみたとか、家族と避難について話し合ってみた、といった授業後の波及効果を垣間見ることできる。

今回掲載したのは、3 年生 4 名、5 年生 4 名の合計 8 名の授業の感想文である。今回、3 年生にも 4・5 年生と同様に「マイタイムライン」を考えてもらったが、授業時には 3 年生には少し難しい内容だったかと心配していた。しかし、感想文を読むと、個人差はあるものの、早めに避難することの重要性や、高いところにおいても取り残されるリスクがあることなどを理解している児童がいることに感心した。また、逃げようと思ったときに電車が動かなかったらどうするか、来ないと思っていたのに突然洪水が来たらどうするのか、といった核心をつくような疑問も出されていた。さらに、ボート訓練に対する興味を示してくれた児童もいた。

また、5 年生は、海外のような水辺イベントを作りたいとか、川に豊かさと危険性の両方があることがわかった、といったような、水に親しむ要素にも着目した回答が多く寄せられた。また、実際に「天サイ！まなぶくん」を使って学校や自分の家の浸水深を調べてみた児童や、事前に逃げる場所を決めておいて、災害が起きた時の動きをシミュレーションしておきたい、という大人顔負けのコメントを書してくれた児童もいて、うれしい驚きであった。

総じて、子供たちからのコメントを読むと、「浸水」と「親水」の両面から、もっと知りたい！調べてみたい！という探究心の芽生えが数多くみられる。しかし、現時点ではこの感想シートで出された新たな疑問に答え、さらに次の学習につなげる機会が持てていない。

出前授業を通して生まれた子供たちの関心を、家庭や地域に、さらには子供たち自身の未来へと繋げるべく、今後も学校・地域・NPO・大学の知恵を組み合わせ、工夫を加えながら発展させていくことを期待している。

ボートは強い味方

NPO ア！安全・快適街づくり 山上 忠

洪水時に交通手段を失った住民にとって食料・病人などの運搬を自からの手で確保出来るエンジン付きゴムボート、ここ数年で北地区 7 町会に装備されています。昼むと人力で運搬出来る軽量と省スペース性、1 時間で組立出来る簡易性、2 馬力のため無免許で操縦可能の利便性など災害時の心強い味方です。

一方注意したいのは ①厚さ約 0.7mm の合成ゴムは尖った物にぶつくと簡単に穴が開く事です。ボートは 3 室の空気袋で構成されているのですぐ沈む事ではなくパンク修理の手法で簡単に修理は可能です。洪水時には障害物が沢山漂流している事を忘れてはいけません。常に全員の救命胴衣装着を義務付け、修理セットと足踏みポンプは必携品です。②ガソリンの危険性についても自覚すべき重要な事です。フル稼働だと約 1 時間でタンクは空になります。揺れるボートの中で携行缶から直接給油すると注入口からあふれてこぼれます。ボート内で引火したら消火は不可能で水に飛び込むしかありません。予めタンク容量より少なめの容器を用意してこれを介して給油するか、あるいは石油ストーブ用電池式ポンプ（1,000 円、満タンに前に自動停止機能付き）を勧めます。ガソリンの購入・保管は消防法では持ち運びは 10 リットル以下の金属製缶、スタンドでの自分で給油は不可、保管量は最大 40 リットル迄で有事の時の 2～3 日分です。ただ、ガソリン無しでも町会内であればオールで十分移動可能です。③スクリューの危険性です。柔らかい樹脂製ですので見た目に感じませんが非常に危険である事を全員に認識させるべきでしょう。④船の運航ですが国際法では右側通行ですので狭い水路内での操船についてはルールに従いましょう。

昨年 6 月 NPO ア！安全は保有しているボートについて連合町会長と以下の協定を交わしました。①緊急時には NPO のボートに関するすべての権限を連合町会長に委譲する②連合町会長は独自の判断で倉庫からの搬出、使用目的、使用優先順位などを指示出来る③また前述のボートに関連した危険性を周知させて安全運用の指導する等々となっています。

出前授業のアンケートにも小中学生の乗船希望が多く寄せられています。今後も出来るだけ多くの皆さんが安全に親水体験出来るよう努めたいと願っています。



YouTube「俺たちの朝旅」から

緊急時ボート使用に関する協定書（案）

特定非営利活動法人ア！安全・快適街づくり（以下「NPO」という）、及び葛飾区新小岩北地区連合町会（以下「連合町会」という）は水害発生時等緊急時の NPO の所有するエンジン付きゴムボート（以下「ボート」という）の使用に関して次の通り協定（以下「本協定」という）を締結する。

1.（ボートの使用権限の委譲）

NPOは連合町会長が緊急時と判断した場合はボートの使用に関するすべての権限を連合町会長に委譲する。連合町会長は単独の判断で倉庫からの搬出、使用目的、使用優先順位などを指示できる。NPOは常時緊急時を問わず各町会自治会からの使用要請に対して連合町会長経由を原則として対応する。NPOは連合町会長の権限で大成化工 HD(株)倉庫からの搬出が出来るよう大成化工 HD(株)との間で事前調整を行う。

2.（ボートの使用に関する規定）

連合町会はボートの使用にあたり、「ボートに関する規定書」に従う。

3.（協議解決）

本協定に定めのない事項又は本協定の定めについて疑義が生じた時は二者は別途協議して解決に当たるものとする。

本協定締結の証として本協定2部を作成し、NPO、連合町会が署名、押印の上各1通を保有する。

平成30年6月1日

特定非営利活動法人 ア！安全・快適まちづくり

理事長 成戸 寿彦 印

葛飾区新小岩北地区連合町会

連合町会長 青柳 勇 印

<ボート取り扱い規定(案)> 2018. 6. 1 NPO ア!安全・快適街づくり

1. ボート所有の意義: ヒタヒタ浸水、ニコニコ親水 を実体験する

2. 名称 : しんすい!まなぶ号(ロゴマーク有り)

3. ボートについて

1) ボート一式の内訳: ①ボート本体②ボート底床③腰掛板④エンジン⑤ガソリントank (5ℓ) ⑥空気ポンプ足踏み式⑦空気ポンプ電動式⑧オール×2 ⑨タイヤ式ボート運搬器⑩パンク修理セット⑪ロープ⑫柄杓⑬収納袋⑭ブルーシート⑮旗ポール⑯旗⑰ライフジャケット(大人用×4、子供用×4) ⑱取扱説明書

2) 性能など : 型式 JOYCRAFT レッドキャップ 295 (JRC-295) 2018、定員4人(積載量430kg) エンジン2馬力 長さ2.95m、幅1.47m、重量26kg

3) 所有者 : NPO ア!安全・快適街づくり 理事長 成戸壽彦

4) 格納場所 : 大成ホールディングス㈱倉庫

4・ボートの運用について

1) 使用対象者 : NPO 活動の活動員及び葛飾区北地区連合町会員

2) 運用責任者:	通常時	非常時
	NPO ア!安全理事長	葛飾区北地区連合町会長
3) 搬出入連絡先:	NPO ア!安全事務局	大成 HD㈱(事後可)

5 使用にあたっての留意事項

1) 運用責任者の行う事項

①危険性の周知徹底を行う。ボート使用者に対するライフジャケットの正しい着用指示、ボートの操縦、スクリュウの危険性、ガソリン・ガソリン給油・ガソリン保管・ガソリン購入と運搬などの他想定されるすべての危険性について行う。

2) 使用者の行う事項

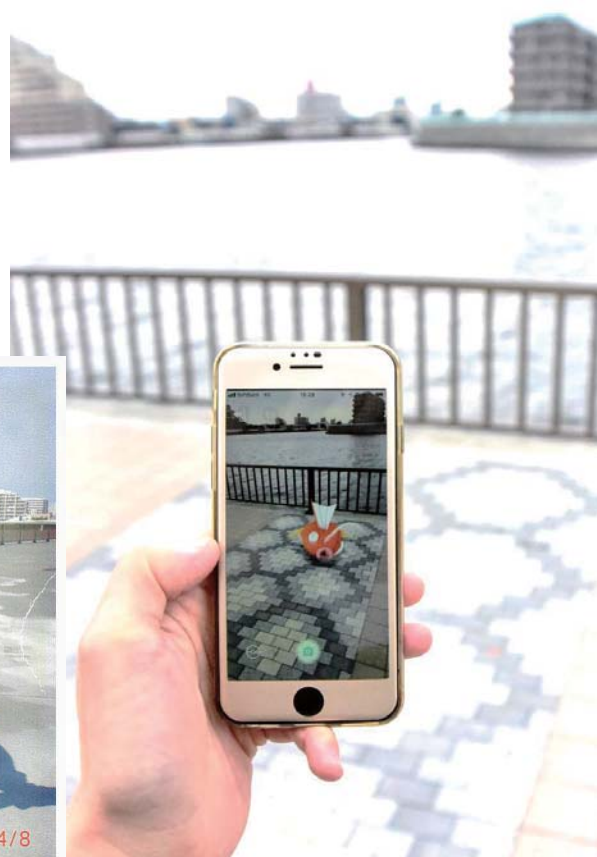
①運用責任者に対するボート搬出入の許可届け出(通常時は事前、非常時は事後も可)
②使用前の点検。危険予知の徹底、燃料・オイル・取扱説明書、オール、ロープなど備品の確認
③使用後の点検。ボートの水洗い、乾燥、ボート一式各部材部品の所在と故障破損紛失の確認
④使用終了報告作成

以上



3/30 ボート訓練中の会員たち（南撮影）

会員から



中川でとれる本物の魚（左：地域人提供）とポケモンの魚（右、コイキング：古川撮影）

初参加者から見た活動について

前川 浩平

東京大学 生産技術研究所 加藤孝明研究室 研究生

私は 4 月から東京大学生産技術研究所の加藤孝明研究室に研究生として所属しており、輪中会議及びボート訓練に初めて参加させていただきました。大変貴重な体験をさせていただきありがとうございました。今回は参加させていただいた率直な感想を投稿させていただきます。

1. 輪中会議

輪中会議に参加させていただいて、輪中会議は地域の防災・まちづくりに関して、地域の方々をはじめ、行政の方々、NPO のの方々、企業の方々、専門家、地域の中学生在がそれぞれの立場から意見の出し合える素晴らしい場であると感じました。特に地域の中学生在が参加していたことには驚かされ、老若男女問わず、活発な意見交換が行われており、非常に有意義な会議であると思いました。

大規模災害発生時には、消防車や救急車を要請する 119 番通報が多数入電し、限りある消防力だけでは対応しきることは難しいのが現状です。そのため、平常時から、地域の人々が自分の住む町の災害リスクを認識し、災害への備えを個人だけでなく地域で行うことで、自助・共助により災害時の被害を少しでも減らせ、自助・共助では対応しきれなかった場所に消防力を適切に注ぐことができると思います。

輪中会議のような先進的な取り組みをしている地域があることを少しでも多くの他地域の人々に周知させ、東京都全体で地域防災力の向上を図ってもらいたいと思いました。

2. 救命ボート訓練

水害時に地域の人々が自前の救命ボートを用いて要救助者を救助するという共助の考えに基づいた非常に素晴らしい取り組みだと思いました。救命ボート訓練に参加させていただいて、訓練中にボートの損傷が見つかり、日頃の定期的な点検や訓練の必要性を痛感しました。また、実際にボートの操作をさせていただき、少し訓練すれば初心者でも簡単な操作であれば行えることが分かりました。水害時には誰しものが要救助者となる可能性があるため、防災意識の高い住民だけでなく、多くの地域の人々がボートの操作を少しでも経験しておくことが重要であると思いました。また、「親水」の面においてボート訓練は楽しく訓練できるので、防災に興味を持つきっかけとして非常に有効であると感じました。

今後、様々な活動に参加させていただければ幸いです。宜しく願いいたします。

民間の力を生かした防災力向上に向けて

金 裁澣

東京大学 生産技術研究所 加藤孝明研究室

1. 民間の力を生かした防災力向上の事例から

防災政策において、災害対応及び危機管理は極めて重要である。災害対応の適切性によって被害の規模、避難生活の長期化などが大きく異なっており、さらに、復旧・復興を大きく左右する重要な要素であるからである。

災害対応の代表的な失敗事例が 2005 年、アメリカで発生したハリケーン・カトリーナの事例がある。堤防が崩れ都市全体が浸水し、多くの人命被害と財産損失が発生し、大きな被害が発生した。特に、公共交通が麻痺し、交通便がなく都市を抜けていくことができなかった高齢者や貧困層が大きな被害をこうむった。また、行政が避難先で指定したスーパードームとニューオーリンズ市民センターには避難できなかった避難者の 55,000 人が集まったが、収容能力を越えた避難所は電気と上下水道などインフラが止まっており、本来の役割を果たせなかったし、備蓄物資もなかった。ハリケーン・カトリーナの災害を通じてアメリカ社会は被害が増幅した原因として、中央政府と地方政府のリーダーシップの不在と災害対応管理システムの徹底的失敗だったと評価している。

このように、行政だけの災害対応は、そのシステムが崩れるたら、社会全体のシステムも崩れる可能性がある。しかし、これまでの災害対応という領域は伝統的に国家の責任領域として認識されてきた。日本においても、伊勢湾台風以降に改正された災害対策基本法では、行政を中心とする内容となっており、近年においてもこのような雰囲気が続いている。

大規模災害の危険性を持っている都市での災害対応は、まさに行政のみの力では不可能なのが事実である。公的インフラを活用した避難所の収容能力は不足しており、現場で様々な関係者を調整し、総括できる人材も不足している。従って、行政だけではなく、色んな資源を持っている民間の力を生かしていく必要がある。ただ、お願いする形態ではなく自発的に参加できる雰囲気を作る必要がある。

前述のハリケーン・カトリーナの時では、民間の力での災害対応が目立った。行政のシステムは崩れてしまったが、実際に、ウォルマートの災害対応は効率的かつ効果的だった。ハリケーンが来る前から迅速なコミュニケーションを通じて、迅速に物資の準備を行った。さらに、一部の売場を避難所空間として提供し、行政の止まった災害対応を支援した。アメリカでは、民間企業が参加し成功した災害対応だったとの評価をしていて、その後、様々な民間資源を活用する努力を続けている。



ハリケーン・カトリーナの時、ウォルマートの災害対応

民間の力を活用した災害対応の事例は、浦項地震時も見られた。2017年11月、韓国の浦項では、大きな地震が発生した。今まで経験したことのない地震だったので、韓国社会では大きな衝撃だった。計92人が負傷し、建物被害によって1,797人の避難者が発生しており、総被害額は850億ウォンだった。

浦項地震の災害対応においては、行政主体の対応でトップダウン的な面も見られたが、経験がなかったため、適切な対応が難しかったり、手が届かないところがあった。そこを民間企業または地域社会の宗教団体等様々な主体が自発的に力を加えて対応するのが多く見られた。

電気製品企業は洗濯機、乾燥機、電子レンジなどを寄付し、避難生活を支援したし、物流企業は流通網を活用して物資を支援した。地域の宗教団体は制度的な枠組みで指定された避難所ではなかったにもかかわらず、自発的に地域社会のために教会と教会の福祉施設を提供した。また、各企業は企業名でボランティア活動を実施し、避難者を支援したし、救護団体では、避難生活者のプライバシー保護のためのテントを寄付した。企業は寄付したのもボランティア活動も企業の名前をアピールしながら支援していた。

このような民間の力を生かした災害対応は、行政にとっては不足する人材と財源に大きな力となり、災害対応力を向上させられる。更に、企業にとっては、地域社会だけでなく社会的にも知られて社会的責任を果たす企業だと言うことでイメージ向上を、地域宗教団体にとっては地域社会のリーダーとして認定された。



(左) 企業ボランティア団、(右) 避難所として使用した教会の福祉施設



避難生活の支援のために電気製品企業から寄付された電気製品



- ・ 被災地全域：被災者 530人、テント 180張設置
(4月6日基準)
- ・ チョンジン小学校の講堂 (写真)
- ・ 被災者約 130人、3~4人用テント 50張
- ・ 全国災害救護協会「希望ブリッジ」とLOTTE
- ・ LOTTE：行政安全部、全国災害救護協会と「**災害緊急救護官民協力業務協約**」締結 (2018.04)
- ・ テント180張、災害救護基金30億ウォン、生活必需品400セット、2000人分の食料品などの支援

ロッテと救護団体が寄付したテント

2. 民間の力を活かした防災力向上に向けた新たな官—民関係づくり

日本の地域社会においても大規模災害に対して、かつて公助だけでは足りないという認識から、自助・共助を強調している。これに、日本社会ではさまざまな活動が活発に行われている。葛飾区の新小岩地区では、様々な主体の連携により先進的なガバナンス体系を構築しており、ボート訓練など地域社会の災害対応力の向上に向けた様々な取り組みを行っている。

また、民間企業においても地域社会の一員として社会的責任という名分のもと、様々な活動が行っている。パチンコ店は備蓄物資を用意し、災害時に被災者に提供する運動やパチンコ駐車場を避難所空間として提供しようとしている。更に、九州地震の後、車中泊避難が多く、自動車会社では車中泊を実際に体験するイベントを開催したり、停電時に電気自動車を活用した電気使用に対する実験など、様々なところで災害時に力を加えるための動きが見られている。



民間からの災害対応に関する社会動きの例

こうした災害対応に対する参加は防災意識の高い一部の企業だけではない。「地域防災における民間企業の共助意識に関する研究：大分市臨海部を事例として」でのアンケート調査結果をみると 93.1%の企業が「防災活動について積極的に参加したい」と回答しており、このような回答をした企業のうち、81.6%が「企業の社会的責任」と「企業が災害時に一定の役割を果たすのは当然と考えているから」と回答している。

こうした結果をみると、日本の民間では社会的責任という認識から、企業が持っている資源や財源、技術や人材など災害時に支援しようとする意識が非常に高いと考えられる。

一方、54.7%が「地域での防災活動で一緒に取り組んでいない」と回答していた。防災意識は高いが、実際に地域での防災活動に参加している企業は少ない。

これは色んな理由があると思うが、実際に広島豪雨で市開設の避難所と仮設住宅を訪ねると、多くの企業が被災者を支援しているはずだが、企業が支援していることが分かる様子はどこにも見られなかった。海外の事例から見ると地域の災害対応に力を貸しながらとしても企業アピールもしている。日本の社会においても地域・官・民、お互いウィンウィンの関係が作れるような雰囲気が必要である。

そのためには、民間企業の社会的責任性(CSR)を超えて、戦略的CSR(Strategic CSR)、共有価値創出(CSV:Creating Sharing Value)等の概念に基づき、企業の社会貢献を単なるボランティア・寄付などの単発的な慈善活動として認識するのではなく、今後企業活動と連携し、企業は長期的に企業の収益性に役立ち、地域は防災力の向上を図るなど、お互いにウィンウィンウィンの関係を結ぶ必要がある。

注目されています！ 葛飾

NPO ア！安全・快適街づくり

葛飾区はさまざまな素敵キャラクターをもっている。

とらさん、モンチッチ、リカちゃん、両さん、そしてこの記事「キャプテン翼」有名どころばかりで、すごいですね。

四ツ木駅を見つけに地図を開くと、改めて葛飾の水辺もすごい。

水元公園―水元小合溜―大場川と歴史の深いせせらぎも、菖蒲園もあってすばらしい。

われらの中川七曲り、綾瀬川、荒川、江戸川、そして河川敷の豊かさ、すごいですね。サッカー場もできそうな感じ。

29 東京 四域 14 版

2019年(平成31年)3月5日(火)

享月 日

東京

千代田 中央 新宿
港 文京 品川 北
目黒 大田 世田谷
渋谷 中野 杉並
豊島 板橋 練馬

速報や写真・話題の提
供、催しなどの連絡先

朝日新聞 東京総局
〒104-8011
中央区築地5-3-2
☎ 03-5541-8435
fax 03-3545-2019
mail tokyo@asahi.com

購読・配達のご用は
☎ 0120-33-0843
(7:00~21:00)
広告のご用は
☎ 03-3547-5552
折り込みのご用は
☎ 03-3544-7621

きょうの天気
6-12時 晴 12-18時 晴

10 大手町 0
10 練馬 0

四ツ木駅「キャプテン翼」一色



「キャプテン翼」の特別装飾が施され、駅に立つ(右から)高橋陽一さん、イニエスタ選手、小林敏也・京成電鉄社長。葛飾区の京成押上線四ツ木駅

イベントにイニエスタ選手も

人気アニメ「キャプテン翼」の特別装飾が施された京成押上線四ツ木駅(葛飾区)で4日、オープニングイベントがあった。

原作者の高橋陽一さんのほか、同アニメのファンで、サッカーの強豪バルセロナ(スペイン)で長年活躍したイニエスタ選手(ヴィッセル神戸)も登場した。

特別装飾は四ツ木駅近くで育った高橋さんらの協力で実現。改札口や階段など駅構内が主人公・大空翼らおなじみのキャラクターで埋め尽くされた。またホームに電車が近づくと、「キャプテン翼」の主題歌「燃えてヒーロー」のメロディとともに、翼と、翼を応援し続け、後に妻となる中沢早苗の声でアナウンスが流れる。

この日のイベントで、高橋さんは「漫画を描き始めた頃、翼がバルセロナに移籍し、そのバルセロナのスター選手が四ツ木に来てくれるなんて、想像もしていなかった」と語った。

イニエスタ選手は子どもの頃、スペインの実家で見えて以来の「キャプテン翼」の大ファン。印象に残っているシーンを聞かれると、「翼君のドライブシュート、若林君のセービング、立花兄弟のコンビプレイ……いろいろありますよ」と笑顔で語った。

京成電鉄の小林敏也社長は「地域とサッカー界の盛り上がり貢献できれば」と話した。

(抜井規泰)

編集担当から



編集会議の様子

※ いつもは東京大学加藤研究室で編集会議を行います。加藤研究室メンバーで近々に東日本大震災後の地元を訪問する計画もあって、この日は特別に編集長の渡邊さんの知人である南三陸町の内海さんをゲストに迎え、そのためのスタディーを兼ねて編集会議を行ったものです。（中央が内海さん、左の後ろ姿は小豆嶋くん）

表紙・裏表紙の写真の解説

渡邊 喜代美・塩崎 由人・南 貴久・小豆嶋 勇誓
ア！安全・快適街づくりニュース vol.25 編集担当

表紙



毎度おなじみの本誌の顔、故・石川前理事長の書。作詞の背景については編集後記上段(☞P.126)をぜひお読みください。

今回の表紙の写真は、この春に上平井中を卒業し高校生になった、本誌の編集会議・新メンバーでもある小豆嶋勇誓くん(☞P.62)撮影。写真部に入ったとこのことで、中川の美しい風景を収めてもらいました。七曲りをカーブしていく船が印象的。

雲の合間から日が差す夕刻の七曲り。
(渡邊撮影)

七曲りの変遷：左から 1905 年、1909 年、1958 年。荒川放水路が完成していく様子がわかる。

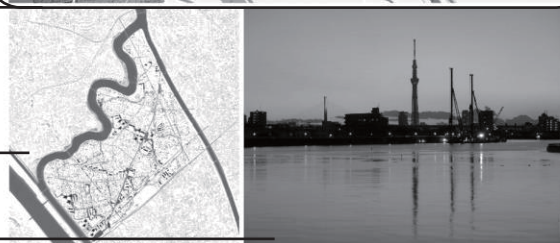
以前学生が構想した 2058 年の新小岩北地区の将来像。

夕日に染まるスカイツリーと中川。石川前理事長が感銘を受けた風景。
(写真提供：地域人)

スカイツリー、富士山、ハーブ橋と中川七曲り。(写真提供：地域人)

表紙のうら

表紙のうらは、さまざまな表情を見せる中川七曲りから。



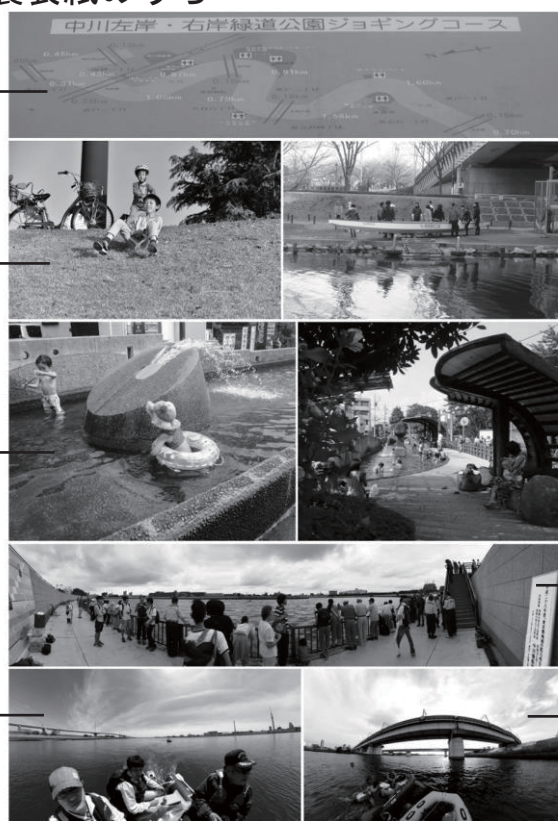
裏表紙のうら

七曲り沿いはジョギングコースになっている。(渡邊撮影)

中川土手でソリ滑り。
(古川撮影、写真は古川
恵吾・翔吾兄弟)

西井堀せせらぎパークで水遊びをする子供たち。(渡邊撮影)

加藤先生、ボート訓練初参加。バイクに乗るだけあって、操縦の腕前は中々。
(南撮影)



かつて七曲りと繋がっていた、荒川対岸の旧中川。ボートやカヌーを楽しむ人で賑う。
(渡邊撮影)

夏の日の西井堀せせらぎパーク。元気いっぱいの子供たちと、日陰で憩う大人たち。
(渡邊撮影)

町会合同ボート訓練に集う多種多様な人々。(塩崎撮影)

ボートで荒川を遡る。新幹線を水面から見るサバイバル体験。
(南撮影)

裏表紙

中川テラスを駆け抜けるランナー。
(渡邊撮影)

中川テラスを散歩する親子。(渡邊撮影)

ゴムボートではるばる埼玉へ。このあたりまで来ると川幅が狭い。(南撮影)



荒川の川辺にテントを張って一泊。もちろん「訓練中」です。左奥に見えるのは彩湖の入口。(南撮影)

中川テラスへ、保育園のお散歩。川行く船に手を振る(☞P.78)。
(写真提供：うらら保育園)

水辺フェスタ in 赤羽岩淵(☞P.70)にて、河原でバーベキューを楽しむ人々。
(南撮影)

NPO ア！安全・快適街づくり ～葛飾区新小

新小岩北地区での取り組みの概要

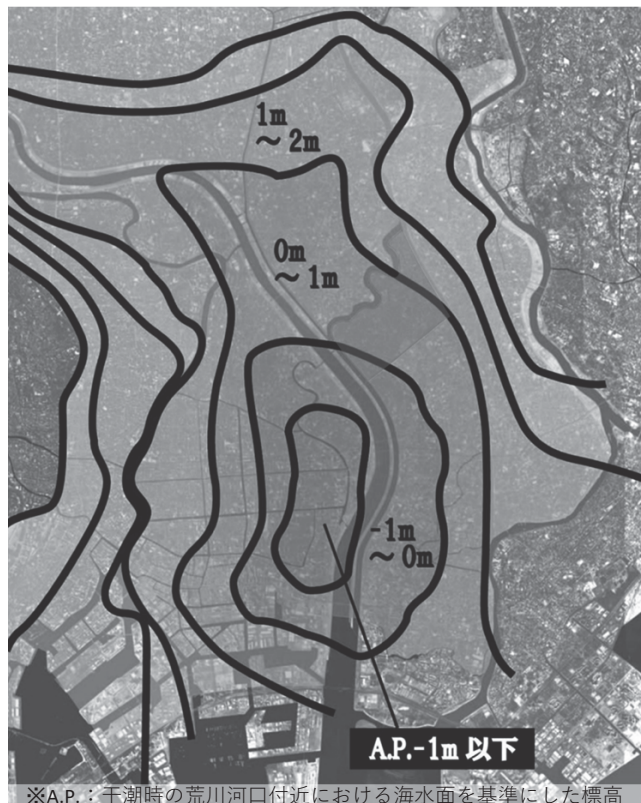
広域ゼロメートル市街地（ゼロメートル地帯に広がる市街地）は、水害発生時の避難や被災後の復旧・復興に大きな課題を抱えている。

広域ゼロメートル市街地に位置する葛飾区新小岩北地区では、新小岩北地区連合町会、当NPO、葛飾区、専門家など、多様な主体が協働して、「防災“も”まちづくり」によって、大規模水害に備える取り組みを進めてきた。

新小岩北地区では、定期的に、多様な主体が一堂に集い、それぞれの取り組みにおける経験や工夫を共有する「輪中会議」を開催し、次の展開を話し合っている。

世代を超えた持続性を創出するために、当NPOは、大学、地域と協働して、小学校への出前授業や中学校の部活支援も行っている。

浸水への備えを有し、かつ、河川の恵みも活かした「浸水対応型市街地」を長期的に形成する方法についても議論を始めようとしている。

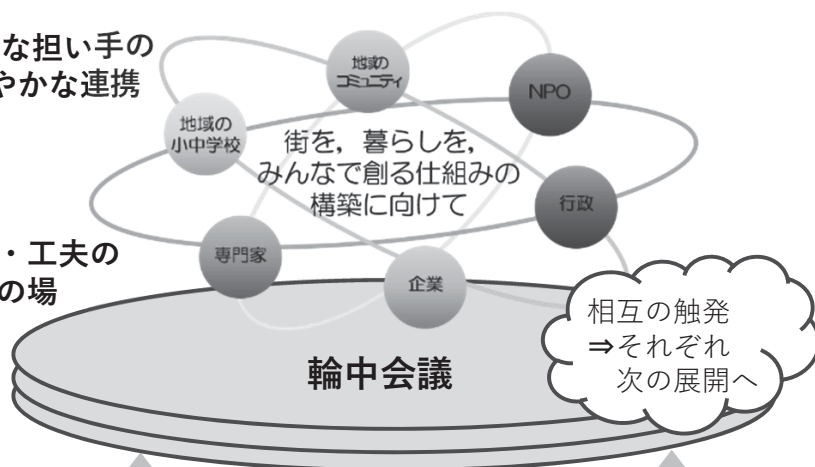


輪中会議

= 多様な主体によるまちづくり

多様な担い手の
緩やかな連携

経験・工夫の
共有の場



【今後の期待】
さらなる多様な取り組みが自然発生的に出現

新たな
取り組み

新たな
取り組み

新たな
取り組み

新たな
取り組み

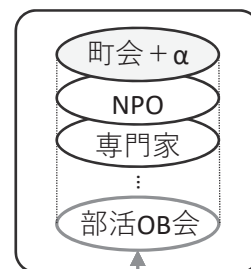
輪中会議を核とした連携による新たな活動・プロジェクトへの期待

世代を超えた

= 小学校への出前授

⇒地域の担い手を自律的

輪中会議



対

保育

小学

(小3)

中学

(部)

高

(部活)

大学

(部活)

社会

出前授業・部活支援

岩北地区における取り組み～

作成：NPO ア！安全・快適街づくり
東京大学 加藤孝明研究室

も

たとえば

豊かな暮らし＋親水まちづくり＋高齢社会対応＋防災＋色々

「防災まちづくり」

防災“だけ”のまちづくりではなく、
防災“も”含めた総合的な視点で取り組むまちづくり

防災“も”まちづくりを持続的に進めるためのキーワード 4 + 1

①総合性

- ・ 防災以外の地域課題，他の目的もあわせて取り組むこと

②内発性

- ・ 自分たちが必要だと思うから，やりたいと思うから取り組むこと

③自律発展性

- ・ 取り組みの内容が雪だるま式に膨らんでいくこと

④多様性

- ・ 参加者の立場やキャラクター，参加組織，活動内容が多種多様であること

+

⑤市民先行・行政後追い

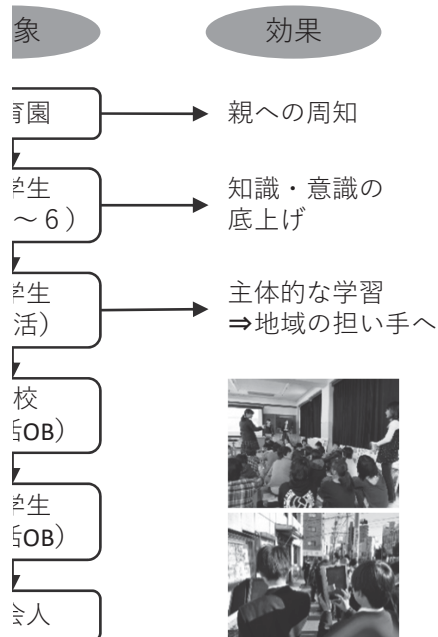
- ・ 先行的な市民の取り組みを，後から行政がきちんとサポートすること



持続性の創出

業・中学校部活支援

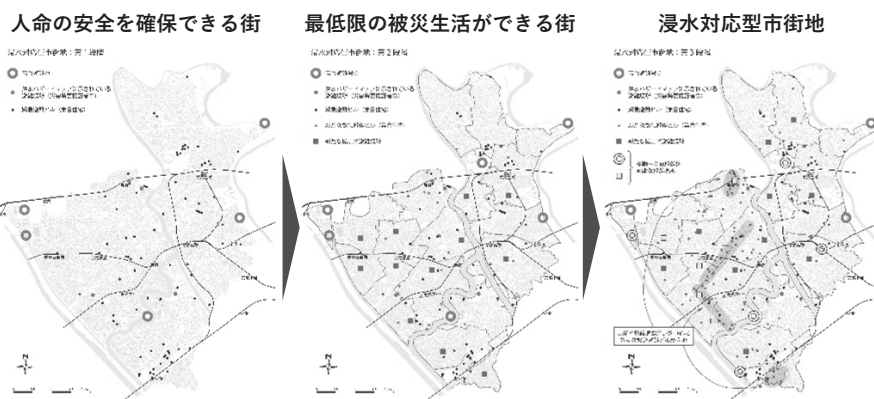
発展的に育む循環の構築



が目指すべきあり方

浸水対応型市街地の検討

= 水害リスクと賢く共生する親水都市へ



浸水対応型市街地を形成する長期的戦略の検討



「浸水」「親水」

新小岩北地区における活動の系譜 ～防災“も”まちづくり～

知る 《情報・経験を共有する》

考える 《対策を検討する》

2002

2005

2006

2009

2010

2011

2012

2013

2014

2015

2016

2017

2018

2019

ワークショップ

- 第1回 2006年12月
- 第2回 2007年1月
- 第3回 2007年4月
- 第4回 2007年12月
- 第5回 2008年2月
- 第6回 2009年4月
- 第7回 2009年5月

第1～5回ワークショップ

地域の水害リスクや行政の防災体制の現状を勉強した。それらを踏まえ、水害発生時に備えた自助・共助のあり方、被災生活のイメージ、水害に強い市街地の目標像を議論・検討してきた。



町会の方がGISを活用して、町会の人たちと水害リスク情報を共有



地域の大人と中学生がともに地域の水害リスクについて学習

世代を超えた持続性の創出



街歩きで川の水面の方が市街地よりも高いことを実感
地理情報システム（GIS）で地域の水害リスクを共有
大規模水害発生時の対策の検討
行政による備えの現状の理解
洪水ハザードマップの理解
将来のあるべき市街地像の検討

西新小岩周辺地域における安全・快適街づくり勉強会

町会、NPO、専門家、葛飾区、東京都、国から成る勉強会を立ち上げ、広域ゼロメートル市街地における水害対策の検討を行った。検討の結果として、①安全避難高台の確保、②浸水対応型建築物の整備、③近隣継続計画、④輪中共同体会議の設立、の4つの方向性が共有された。

新小岩北地区ゼロメートル市街地協議会の設立

安全・快適まちづくり輪中会議

- 9月 第1回 「持ち寄りの共助」
- 10月 第2回 「持ち寄りの共助」
- 12月 第3回 「わからないことをなくす」
- 2月 第4回 「iPadで地域を観察する」
- 3月 被災地訪問 宮城県南三陸町
- 2月 第5回 「経験の共有」
- 3月 第6回 「これからの協働のあり方を考える」
- 10月 第7回 「高台化のあり方を考える」
- 3月 第8回 「経験を共有し、深め、輪を広げる」
- 3月 第9回 「地域の新たな状況を共有し、未来を考える」
- 3月 第10回 「経験を共有し、未来を考える」
- 3月 第11回 「親水・浸水×まちづくり×ひとづくり」
- 3月 第12回 「親水・浸水×まちづくり×ひとづくり」

協働体制をつくる

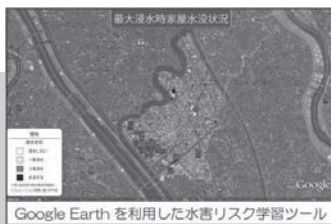
研究する (専門家・大学)

俯瞰する

ワークショップ開始時



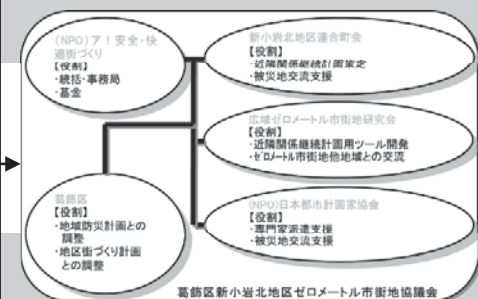
- ・ワークショップの支援
- ・水害リスクに関するデータの作成
- ・水害リスク学習ツールの開発



2008年
5月 シンポジウム「大規模水害に備える」
10月 全国まちづくり会議 in 恵庭

2009年
9月 全国まちづくり会議 in 川崎
パネル展示

新小岩北地区ゼロメートル市街地協議会



2011～2013年度 浸水対応型市街地研究会

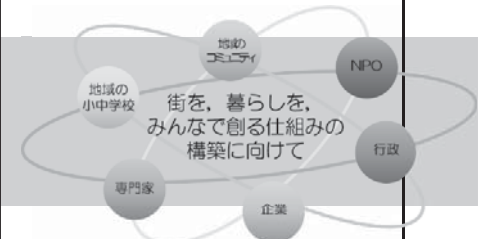
- ・ 必要な避難空間の推計
- ・ 高台、浸水対応型建築物のあり方の検討
- ・ 浸水対応型市街地の形成戦略の検討

6月 国際交流イベント
「水害に備える安全・快適まちづくり
シンポジウム」
10月 全国まちづくり会議 in 熊本

1月 国際交流イベント
全国まちづくり防災フォーラム
10月 全国まちづくり会議 in さいたま

輪中会議

現在の協働体制



- ・ 防災アプリの開発
「天サイ！まなぶくん」



3月 シンポジウム
「街を、暮らしを、みんなでどう守るか」
9月 全国まちづくり会議 in 神戸

3月 シンポジウム
「大規模水害に備えて街を、暮らしを、
みんなでどう守るか」
10月 全国まちづくり会議 in 長岡

3月 シンポジウム
「これからの協働のあり方を考える」
10月 全国まちづくり会議 in 北上

10月 全国まちづくり会議 in 東京



水辺ルネサンス構想（仮称）の検討

浸水対応型市街地の検討 ～水害リスクと賢く共生する親水都市へ～

11月 三氏を語る会
「地域のこれからを語る」

9月 シンポジウム「災害から学ぶ」
第一部 カスリーン台風の記憶と経験の共有
第二部 水害リスクと賢く共生する親水都市へ
10月 全国まちづくり会議 in 横浜

世代を超えた持続性の創出

NPO

町会

小中学校

2002
?
2005

2002年
NPOア！安全・快適街づくり設立

2005年
水位表示ポールの設置

ワークショップ
の主催

町会独自の取り組み

2006
?
2009

2007年11月
ボード乗船下船・親水体験
「葛西海浜公園へ行こう」

2008年3月
「川から街を見る」



2009年11月
松戸市21世紀の森と広場への避難訓練
西新小岩3丁目公園での炊き出し訓練



2010

避難用ボード使用訓練



2011

ゼロメートル市街地協議会の運営
・シンポジウムの企画
・輪中会議の運営

小中学校での出前講座

水害も考慮した
避難所運営会議

上平井中学校
地域防災ボランティア部の
取り組み
(NPO・大学も支援)



2012

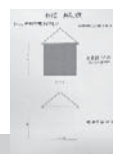


水害を想定した
避難訓練の実施

2013



赤旗白旗救援訓練



2014



民間マンションとの
水害時一次協定締結

中学生と共同で防災訓練

スタンドパイプの練習会



2015

2016

内閣府・災害避難カード
ワークショップ

(東新小岩7丁目町会、
内閣府、葛飾区、
NPO、大学)

防災マップの作製



2017

2018

2019

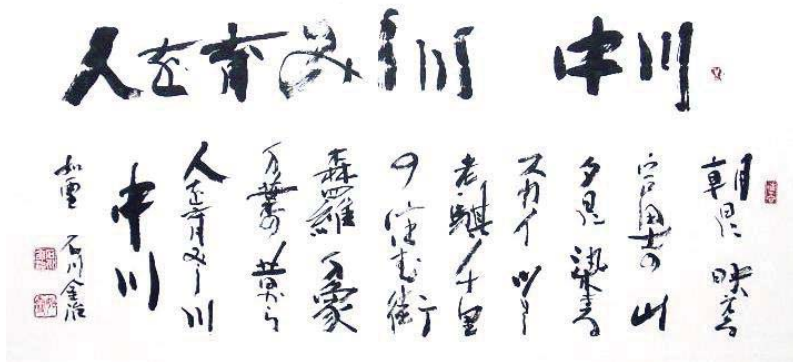
「古井戸」の活用：
説明板づくりWSなど
(2019年11月)

「犠牲者ゼロ」の実現に
向けたワークショップ

広域避難訓練
マイタイムライン

子供たちの
マイタイムライン
づくり

PTA	福祉施設 民生児童委員	地域の有志	行政
			2007年～洪水ハザードマップの配布（区）  2009年 区民や事業者等への水害出前講義の開始（区） まるとまちごとハザードマップ（国）
			大規模水害対策検討委員会設置（区） 中川テラス開園（区）
			都市計画マスタープランの改訂による 高台避難場所の位置づけ（区） 「事業継続計画作成のすすめ」 を作成（国）
			「水害時における民間集合住宅との 一時避難締結に係わるガイドライン」 を作成（国）
ふたがみこどもまつり でのボート体験  	松上小学校への避難訓練 （たつみ保育園） 東京都認可保育園 BCP作成の義務化 アレルギーガイドライン 非常食アレルギー除去食 の購入 高齢者向けの防災講演会 水防法改正の説明会	水害時避難用高台整備勉強会 （西新小岩3丁目有志） おれたちの朝旅  	防災アプリ「天サイ！まなぶくん」 配信開始（区）  高台整備事例：東京理科大 葛飾キャンパス 1.5m程度の盛土を実施 洪水緊急避難建物の指定（区） 避難確保計画のひな型作成（区） 防災啓発DVDの作成（水害編）（区） タイムラインの検討（国） 洪水緊急避難建物への備蓄物資配備（区） 水害に強い建物を促進する街づくりルール検討中（区） 消防団へのゴムボートの貸与（区） 江東5区大規模水害対策協議会
		勉強会から区への提言 ↓ 区からの回答の受理 	要配慮者利用施設を対象とした水害時の 避難計画作成支援（区） 新小岩公園の高台化へ（区） 内閣府・災害避難カードワークショップ
			浸水に対応した街づくり検討会（区） “犠牲者ゼロ”の実現に 向けたワークショップ（区） 「古井戸」の復元（区・都）



書の作詞は故石川金治「人を育みし川、中川」の詩文全体は、北新小岩地域を流れる、中川の豊かさを、いつも感じているので、その讃辞の詩。この“老キ千里”の文言は、私達と一緒に活動の屋台骨を支えている人の顔を想像しやすい文言を探

した結果です。また作詞のもう一つの動機は、事務局会議終了後、渡辺さんと塩崎さんと3人で、夕日の中のスカイツリーを見た時の感動が大きかったから、その感動が原動力となって、作詞をしましたと石川さん。渡邊が老騏、老驥とは、と問うたら、馬小屋に寝ていても志は千里にあり、老騏、老驥は個性あふれる表現という。石川さんは千の風にのって逝ってしまったが書は生きている。中川七回りがあるかぎりしばらく表紙に登場いただく。

2016年は鈴木町会長、徳倉会長、石川理事長と惜別するも3人の問題提起は、今も活動の中で生きている。

..... ♪ 25号 編集後記 ♪ 2019・06・11

2019年4月7日の輪中会議は、小学生の撮影班、中学生の堂々レポート、新たに参加の地域の方々、参加者の多様化も一段と膨らんだ。未来を支える柔軟性は、さらに高まると感じている。12回輪中会議の記録も初めてスポットとして本号へ収録を試みた(☞P.29-52)。

中学の部活支援も進化、出前事業も根付いてきた。新艇「しんすい！まなぶ号」は地域で活用いただく段取りも整った。

“浸水対応型市街地形成”も新たな議論の段階へ進んだ。はたまた、川の手・人情都市「かつしか」、あるいは区都市マスで「水害に強いまちづくり方針」を位置づけ、東京都市白書で中川七曲りも地図に入り、“災害リスクと賢く共生した親水都市”は、一步、また一步と未来に向かって進んでいく。

今号でも、学校から、地域から、理事から、行政から、加藤研究室の研究者たちから、多様な記事が寄稿された。はじめての参加者も寄稿くださった。素晴らしいことである。

既刊 NPO ア！ニュースレターの1号から24号まではホームページに完成版で掲載してあります。ぜひゆっくりとごらんください。近年号では、2017年9月カスリーン台風から70年、災害を忘れず未来に向き合うシンポジウムを開いたその記録は、NPO ア！15周年とあわせ24号に特集されています。2011・3・11 東日本大災害から8年目を超え、人々のご苦労はいまだに続いている。またも切れ目なく起こる各地の災害・水害も、被災の体験をどう生かすか、どう対処するか。私たちの活動にも切れ目がない。改めて災害を記憶しておくことの大事さを思う。

今号は、中表紙の工夫、写真もたくさん多く入れて、すばらしい総集編となりました。NPO ア！も創設から18年へ。「古井戸」の復元セレモニーも秋に計画されている。今、もう一つ、うれしいニュースは、編集会議のメンバーに上平井中のOBで高校生となった小豆嶋勇誓さんが参加することになった。みなさんこれからもよろしくお願いします。

編集会議：渡邊喜代美(総括)・塩崎由人・南貴久・小豆嶋勇誓

「特定非営利活動法人 ア！安全・快適街づくり」
〒124-8535 東京都葛飾区西新小岩三丁目5番1号
電話 / FAX 03-3696-7480
ホームページ：<http://www.banktown.org/>



